

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース										C	進	特	進	進	特	特	看	学期	学 習 内 容		時数
教科名	国語			科目名	論理国語					D	学	進	文	理	文	理	護		第1学期 <		

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース										C	進	特	進	進	特	特	看	学期	学 習 内 容		時数															
教科名	国語			科目名	文学国語					D	学	特	進	進	特	特	看	第1学期	4月 ～ 5月	1 随想・評論（一）想像と共感 飛ぶことを知っている魂 梨木香歩	7															
単位数	2	学科	普通科	学年	2年	該当するコース・科 →											●																			
教科書・副教材・（発行所）																																				
① 教科書：文学国語（大修館：文国704） ② 問題集：文学国語 学習ノート（文国 704準拠） ③ ④																																				
学 習 の 重 点 目 標																																				
①文章の内容、構成、展開。描写などをとらえ、解釈できる読解力をつける。 ②他作品などと比較して読解し、文体の特徴や効果を考えたり、解釈を深めたりできるようにする。 ③解釈を他者と共有し、解釈の多様性について考える力をつけ、ものの見方、考え方、感じ方を深める。 ④体験に基づき、構成、表現などを工夫して、文学的文章を書く力を養う。																																				
	知識・技能				思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度																											
評価の趣旨	国語一般常識や文章の読解力を、小テストと定期考査で評価する。				考えたことを的確に表現できる力を、授業中の問いに対する解答やレポート・感想文作成、話し合いの様子等で評価する。				自ら進んで学習に取り組み、向上し続けようとする意欲を、授業中の態度や提出物、学期ごとの振り返りで評価する。																											
評 価 の 基 準																																				
	A（十分満足できる状況）				B（概ね満足できる状況）				C（努力を要する状況）																											
知・技	定期考査と小テストの合計得点が80点以上であり、基本から応用まで万遍なく理解することができている。				定期考査と小テストの合計得点が55～79点である。				定期考査と小テストの合計得点が30～54点である。				定期考査と小テストの合計得点が30点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。																							
思・判・表	探究的な課題やグループ活動で、自分の考えを他者に伝える適切な表現で述べたり、表現することができている。 文章読解後の考えや感想を、レポートや感想文等で他者によく伝わるよう的確に表現することができている。				探究的な課題やグループ活動で、ある程度自分の考えを述べたり、表現することができている。 文章読解後の考えや感想を、レポートや感想文等である程度伝わるように表現することができている。				探究的な課題やグループ活動で、あまり自分の考えを表現することができている。 文章読解後の考えや感想を、レポートや感想文等で表現することがあまりできていない。																											
主体性・態度	学習に主体的に取り組み、積極的に発言したり、提出物を期限内に出したりすることができている。 振り返るべき内容をきちんと考えて表現することができ、次の取り組みにしっかり活かすことができている。				真面目に学習に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。 振り返るべき内容を表現することはできているが、次の取り組みにあまり活かせていない。				あまり前向きな気持ちで学習に取り組めていない。 振り返るべき内容をあまり考えることができていない。																											
総 時 間 数																																				

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース							C D	進 学	特 進	進 文	進 理	特 文	特 理	看 護	学期	学 習 内 容		時数						
教科名	地理歴史		科目名	地理総合																				
単位数	2	学科	看護科	学年	2年	該当するコース・科 →								●	第1学期	4月 ～ 5月	第2編 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 グループ1 自然環境と生活文化 テーマ①地形と生活文化	2						
教 科 書 ・ 副 教 材 ・ (発 行 所)																5月	テーマ②気候と生活文化 ★中間考査	3 1						
① 新選地理総合 welcome to geography (実教出版) ② 新詳高等地図 (帝国書院) ③ ④																6月 ～ 7月	テーマ②気候と生活文化 グループ2 テーマ①東アジア	11						
学 習 の 重 点 目 標																	★期末考査	1						
地理に関わる諸事情について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深めさせる。																								
	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度																	
評価の趣旨	①定期考査の出来具合 考査の問題は教科書や問題集の内容を中心に作問 ②小テストの出来具合 教科書の学習した内容についての10分間小テストを実施			①定期考査毎に問題集への取り組み状況や記述内容の評価 ②定期考査後の振り返り課題レポートの記述内容の評価			①授業中の態度や意欲を評価 ②課題レポートや問題集の提出状況の評価 ③定期考査後に実施する自己評価・振り返り課題の提出状況や記述内容の評価																	
評 価 の 基 準															第2学期	8月 ～ 9月	テーマ①東アジア グループ3 テーマ②西アジア・北アフリカ ★中間考査	11 1						
	A (十分満足できる状況)			B (概ね満足できる状況)			C (努力を要する状況)																	
				B+						B-														
知・技	定期考査と小テストの合計得点が80点以上であり、基本から応用まで万遍なく理解することができている。			定期考査と小テストの合計得点が55～79点である。			定期考査と小テストの合計得点が30～54点である。			定期考査と小テストの合計得点が30点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。														
思・判・表	探究的な課題やグループ活動に積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、適切に表現することができている。			探究的な課題やグループ活動に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、表現することができている。			探究的な課題やグループ活動にあまり取り組むことができていない。																	
	応用的な問題にも計画的に取り組む、論理的な思考力や的確な判断力を身に付けることができています。			応用的な問題に取り組む、ある程度の思考力や判断力が身につけてきている。			応用的な問題にあまり取り組むことができていない。																	
主体性・態度	予習・復習をして粘り強く学習に取り組む、グループ活動においても積極的に発言することができる。			真面目に学習に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。			あまり前向きな気持ちで学習に取り組めていない。																	
	振り返るべき内容をきちんと考えて表現することができ、次の取り組みにしっかり活かすことができている。			振り返るべき内容を表現することはできているが、次の取り組みにあまり活かしていない。			振り返るべき内容をあまり考えることができていない。																	
総 時 間 数															12月 ～ 1月	グループ5 テーマ①北アメリカ 第2章 地球的課題と国際協力	16							
															2月 ～ 3月	第2章 地球的課題と国際協力 ★期末考査	1							
総 時 間 数															61									

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース							C	進	特	進	進	特	特	看	学期	学 習 内 容		時数	
教科名	数学		科目名	数学A			D	学	進	文	理	文	理	護	第 1 学 期	4 月 ～ 5 月	※1年次の数学Ⅰの続きの内容 第4章 図形と計量 第1節 三角比 1 三角比 2 三角比の性質	9	
単位数	3	学科	看護科	学年	2年	該当するコース・科 →								●			第 2 学 期	6 月 ～ 7 月	中間検査
教 科 書 ・ 副 教 材 ・ (発 行 所)																			
①教科書：新編数学Ⅰ（実教出版） ②教科書：新編数学A Flex（実教出版） ③問題集：ラウンドノート数学Ⅰ（実教出版） ④問題集：ラウンドノート数学A 新訂版（実教出版）																			
学 習 の 重 点 目 標																			
①数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。また、数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的根拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 ②家庭学習をする習慣を身に付け、自己の学習方法を改善・調整しようとする姿勢を身に付ける。																			
	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度												
評価の趣旨	①定期検査の出来具合 問題は問題集の内容を中心に作問 ②小テストの出来具合 教科書の学習した内容についての10分間小テストを実施			①定期検査毎に問題集への取り組み状況や記述内容を評価 ②定期検査後の振り返り課題レポートの記述内容を評価 ③グループ活動や発表の内容を評価			①授業中の態度や意欲を評価 ②課題レポートやノートの提出状況の評価 ③定期検査後に実施する自己評価・振り返り課題の提出状況や記述内容を評価												
	評 価 の 基 準																		
	A（十分満足できる状況）			B（概ね満足できる状況）			C（努力を要する状況）												
				B＋			B－												
知・技	定期検査と小テストの合計得点が80点以上であり、基本から応用まで万遍なく理解することができている。			定期検査と小テストの合計得点が55～79点である。			定期検査と小テストの合計得点が30～54点である。			定期検査と小テストの合計得点が30点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。									
思・判・表	探究的な課題やグループ活動に積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、適切に表現することができている。			探究的な課題やグループ活動に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、表現することができている。			探究的な課題やグループ活動にあまり取り組むことができていない。												
	応用的な問題にも計画的に取り組む、論理的な思考力や的確な判断力を身に付けることができている。			応用的な問題に取り組む、ある程度の思考力や判断力が身につけてきている。			応用的な問題にあまり取り組むことができていない。												
主体性・態度	予習・復習をして粘り強く学習に取り組む、グループ活動においても積極的に発言することができる。			真面目に学習に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。			あまり前向きな気持ちで学習に取り組めていない。												
	振り返るべき内容をきちんと考えて表現することができ、次の取り組みにしっかり活かすことができている。			振り返るべき内容を表現することはできているが、次の取り組みにあまり活かせていない。			振り返るべき内容をあまり考えることができていない。												
総 時 間 数																			88

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース							C D	進 学	特 進	進 文	進 理	特 文	特 理	看 護	学期	学 習 内 容			時数
教科名	理科		科目名	化学基礎															
単位数	3	学科	看護科	学年	2年	該当するコース・科 →								●	第1学期	4月 ～ 5月	序章 化学と人間生活 1章 物質の構成 1節 物質の探究 2節 物質の構成粒子	1 4 5	
教科書・副教材・（発行所）																			
① 教科書：化基007-903「高校化学基礎visual」（実教出版） ② 副教材：高校化学基礎カラーノート 改訂版（実教出版） ③ 副教材：高校化学基礎 visual エブリィノート（実教出版） ④																			
学 習 の 重 点 目 標																			
物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。(1)日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に着けるようにする。(2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(3)物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養																			
	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			第2学期	8月 ～ 9月	3節 金属結合 3章 物質の変化 1節 物質と化学反応式	20						
評価の趣旨	①定期考査の出来具合 考査の問題は教科書や副教材の内容を中心に作問 ②小テストの出来具合 教科書の学習した内容についての10分間小テストを実施			①定期考査毎に問題集への取り組み状況や記述内容を評価 ②振り返りシートや課題提出の記述内容を評価 ③練習問題や探究課題についてのグループ活動や発表の内容を評価			①授業中の態度や意欲を評価 ②課題レポートや問題集の提出状況を評価 ③定期考査後に実施する自己評価・振り返り課題の提出状況や記述内容を評価												
	評 価 の 基 準																		
		A（十分満足できる状況）		B（概ね満足できる状況）		C（努力を要する状況）													
知・技	定期考査と小テストの合計得点が80点以上であり、基本から応用まで万遍なく理解できている。			B＋		B－		定期考査と小テストの合計得点が30点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。											
				定期考査と小テストの合計得点が55～79点である。		定期考査と小テストの合計得点が30～54点である。													
思・判・表	探究的な課題やグループ活動に積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、適切に表現することができている。			探究的な課題やグループ活動に積極的に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、表現することができている。			探究的な課題やグループ活動にあまり取り組むことができていない。												
	応用的な問題にも計画的に取り組む、論理的な思考力や的確な判断力を身に付けることができている。			応用的な問題に取り組む、ある程度の思考力や判断力が身につけてきている。			応用的な問題にあまり取り組むことができていない。												
主体性・態度	予習・復習をして粘り強く学習に取り組む、グループ活動においても積極的に発言することができる。			真面目に学習に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。			真面目に学習に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。												
	振り返るべき内容をきちんと考えて表現することができ、次の取り組みにしっかり活かすことができている。			振り返るべき内容を表現することはできているが、次の取り組みにあまり活かしていない。			振り返るべき内容をあまり考えることができていない。												
総 時 間 数															90				

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース							C D	進 学	特 進	進 文	進 理	特 文	特 理	看 護	学期	学 習 内 容		時数
教科名	理科		科目名	生物基礎												学 習 内 容		
単位数	3	学科	看護科	学年	2年	該当するコース・科 →								●	第1 学期	4月 5月	1章 生物の特徴 1節 生物の多様性と共通性 1章 生物の特徴 2節 生物とエネルギー 【中間考査】	4 9 1
教 科 書 ・ 副 教 材 ・ (発 行 所)																6月 7月	2章 遺伝子と働き 1節 遺伝情報とDNA 2章 遺伝子と働き 2節 遺伝情報とタンパク質の合成 【期末考査】	7 7
学 習 の 重 点 目 標																	8月 9月	3章 ヒトのからだの調節 1節 体内環境 3章 ヒトのからだの調節 2節 体内環境の維持のしくみ 【中間考査】
自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を化学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す															10月 11月			3章 ヒトのからだの調節 3節 免疫 4章 生物の多様性と生態系 1節 植生と遷移 【期末考査】
評価の趣旨	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			第2 学期	12月 1月	4章 生物の多様性と生態系 2節 植生とバイオーム 4章 生物の多様性と生態系 3節 生態系と生物の多様性	8 6					
	①定期考査の出来具合 副教材の内容を中心に作問 ②小テストの出来具合 教科書の学習した内容について小テストを実施			①課題レポートの内容 単元毎に探究課題を実施 ②グループ活動・発表の内容 探究課題についてのグループ活動及び発表を実施			①授業中の態度や意欲 ②提出物の内容 授業プリント・副教材 ③自己評価・振り返り 単元毎に自己評価・振り返りを実施					2月 3月	4章 生物の多様性と生態系 4節 生態系のバランスと保生	6 1				
	評 価 の 基 準			C（努力を要する状況）														
知・技	A（十分満足できる状況）			B（概ね満足できる状況）			C（努力を要する状況）			第3 学期	総 時 間 数	88						
	B＋			B－														
思・判・表	定期考査と小テストの合計得点が80点以上であり、基本から発展まで万遍なく理解できている。			定期考査と小テストの合計得点が55～79点である。			定期考査と小テストの合計得点が30～54点である。			予習・復習をして粘り強く学習に取り組む、グループ活動においても積極的に発言できている。	真面目に学習に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。	学習面・活動面においてもあまり取り組む気持ちがでない。						
	探究的な課題やグループ活動に積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、適切に表現することができている。			探究的な課題やグループ活動に積極的に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、表現することができている。			探究的な課題やグループ活動にあまり取り組むことができていない。											
主体性・態度	発展的な内容も意欲的に学習し、身近な事物・現象に対し科学的な見方や考え方が身についている。			発展的な内容も学習し、ある程度の科学的に見方や考え方が身についている。			発展的な内容を学習することができていない。			振り返るべき内容をきちんと考え、次の取り組みにしっかり活かすことができている。	振り返るべき内容は考えられているが、次の取り組みに活かすことがあまりできていない。	振り返るべき内容をあまり考えられていない。						
	予習・復習をして粘り強く学習に取り組む、グループ活動においても積極的に発言できている。			真面目に学習に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。			学習面・活動面においてもあまり取り組む気持ちがでない。											

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース							C D	進 学	特 進	進 文	進 理	特 文	特 理	看 護	学期	学 習 内 容		時数
教科名	保健体育		科目名	体育（女）												学 習 内 容		
単位数	2	学科	普通科	学年	2年	該当するコース・科 →								●	第1 学期	4 月 ～ 5 月	オリエンテーション スポーツテスト② ハンドボール （パス・ドリブル・シュート） ○実技試験	6
教 科 書 ・ 副 教 材 ・ （ 発 行 所 ）																6 月 ～ 7 月	ハンドボール （対人・ゲーム） ○実技試験	8
① 現代高等保健体育（大修館書店） ② Active Sports2025〔総合版〕（大修館書店） ③ ④																		
学 習 の 重 点 目 標																		
各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を整え体力の向上を図る。 公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。																		
	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			第2 学期	8 月 ～ 9 月	スポーツテスト① バレーボール （アンダーパス・オーバーパス・スパイク・サーブ・ゲーム） ○実技試験	11					
評価の趣旨	①各種の運動ごとに実施する実技テスト（記録）の出来具合 ②新体力テストの出来具合 ③3学期のみ定期考査の出来具合			①各種の運動に応じた技能向上への取り組み ②グループ活動や技術達成のための取り組み ③感謝や思いやりから協力する姿勢や取り組み			①授業中の態度や意欲 ②授業への準備（服装・体操）に対する姿勢や態度 ③自己評価・振り返り・反省への態度				10 月 ～ 11 月	陸上競技 （走り幅跳び・砲丸投げ） ○実技試験	13					
	評 価 の 基 準																	
		A（十分満足できる状況）		B（概ね満足できる状況）		C（努力を要する状況）												
知・技	実技テストと新体力テストの合計が80点以上であり基本的な技術が習得できている。 3学期のみ実技テストと定期考査。		実技テストと新体力テストの合計が55～79点である。 3学期のみ実技テストと定期考査。		実技テストと新体力テストの合計が30～54点である。 3学期のみ実技テストと定期考査。		実技テストと新体力テストの合計が30点未満であり、基本的な技術や知識があまり理解できていない。 3学期のみ実技テストと定期考査。		第3 学期	12 月 ～ 1 月	バスケットボール （パス・ドリブル・シュート・対人・ゲーム） ○実技試験	10						
			実技テストと新体力テストの合計が55～79点である。 3学期のみ実技テストと定期考査。		実技テストと新体力テストの合計が30～54点である。 3学期のみ実技テストと定期考査。													
思・判・表	グループ活動や課題となる運動技術の習得に積極的に取り組み、自分の考えを発言したり、適切に表現することができる。 応用的な技術にも積極的に取り組み、論理的な思考力や的確な判断力を身に付けることができる。		グループ活動や課題となる運動技術の習得に積極的に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、表現することができる。		真面目に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。		グループ活動や課題となる運動技術の習得にあまり取り組むことができていない。			2 月 ～ 3 月	体育理論 ●期末考査	5						
			グループ活動や課題となる運動技術の習得に積極的に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、表現することができる。		真面目に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。		グループ活動や課題となる運動技術の習得にあまり取り組むことができていない。											
主体性・態度	運動技術の習得に向けて粘り強く取り組み、グループ活動やゲームでは積極的に活動することができる。 振り返るべき内容をきちんと考えて取り組むことができ、次の練習にしっかり活かすことができる。		運動技術の習得に向けて粘り強く取り組み、グループ活動やゲームでは積極的に活動することができる。		真面目に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。		あまり前向きな気持ちで学習に取り組めていない。					1						
			運動技術の習得に向けて粘り強く取り組み、グループ活動やゲームでは積極的に活動することができる。		真面目に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。		あまり前向きな気持ちで学習に取り組めていない。											
総 時 間 数																54		

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース							未 創	進 探	特 進	C D	進 文	進 理	特 文	特 理	看 護	学期	学 習 内 容		時数
教科名	外国語【英語】		科目名	英語コミュニケーションⅡ															
単位数	3	学科	看護科	学年	2年	該当するコース・科 →									●	第 1 学 期	4 月 ～ 5 月	Lesson 1 A Swedish Girl' s Discoveries in Japan Part 1 Part 2 Part 3	2 2 2
教 科 書 ・ 副 教 材 ・ (発 行 所)																			
① LANDMARK Fit English Communication Ⅱ (啓林館) ② LANDMARK Fit English Communication Ⅱ WORKBOOK (啓林館) ③ ④																			
学 習 の 重 点 目 標																			
基本的な文法事項を理解し、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、学んだ事項を応用しながら、自分の意見や考えを表現し、コミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。																			
評価の趣旨	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			第 2 学 期	8 月 ～ 9 月	Lesson 4 Seeds for the Future Part 1 Part 2 Part 3 Part 4	4 5 5 5						
	小テスト及び定期考査による合計得点で評価する。 授業内で取り上げた内容とワークブックから出題する。			提出物の出来具合や授業内での発言やグループ活動での発表内容で評価する。			提出物の提出状況や授業内での発言や授業への参加などの積極性を評価する。												
評 価 の 基 準																			
知・技	A (十分満足できる状況)			B (概ね満足できる状況)			C (努力を要する状況)			第 3 学 期	10 月 ～ 11 月	Lesson 6 Edo: A Sustainable Society Part 1 Part 2 Part 3 Part 4	5 5 5 5						
				B +	B -														
思・判・表	定期考査と小テストの合計得点が80点以上であり、基礎を理解し、それを応用することができる。			定期考査と小テストの合計が55～79点であるとき。			定期考査と小テストの合計が30～54点であるとき。			第 3 学 期	12 月 ～ 1 月	Lessson 7 Our Future with AI Part 1 Part 2	5 5						
	グループ活動や発表で積極的に発言でき、自分の意見をわかりやすく述べることができる。 課題の内容から、学んだ事項が身についていると見受けられたとき。			課題の内容で不正確な部分はあるが、学んだ事項を使いながら、正しい文章を作ろうとしているとき。			課題や提出物に取り組めておらず、授業内でも既習事項の適切な表現を使うことができていないとき。												
主体性・態度	提出物が期限内に提出されており、自己の学習内容が定着していると考えられるとき。			提出物を最終提出期限内に提出できている。既習事項が定着していると考えられるとき。			提出物が提出されておらず、自己の学習が定着していることが見受けられないとき。			第 3 学 期	2 月 ～ 3 月	Lesson 7 Our Future with AI Part 3 Part 4	5 5						
	主体的に授業や活動に取り組んでおり、授業内でも積極的に発言できている。			授業内での発言をためらう傾向にあるが、授業やペア、グループでの活動に参加しようとしている。			ペアワークやグループ活動や発表にあまり積極的でない。参加しようという意欲が見られない。												
総 時 間 数																80			

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース										C	進	特	進	進	特	特	看護	学期	学 習 内 容		時数
教科名	看護			科目名	疾病のなり立ちと回復の促進					D	学	進	文	理	文	理	看護		4月	薬理 第1編1章 薬物に関する基礎知識 2章 医薬品の適正な使用に必要な基礎知識	
単位数	3	学科	看護科	学年	2年	該当するコース・科 →															5月
教科書・副教材・(発行所)																		第1学期	6月	薬理 第3編1～3章 薬物をめぐる医療安全 第1編3章 神経系・筋に作用する薬物	
① 看護学入門3 薬理学 (メヂカルフレンド社) ② 看護学入門4 病理学 (メヂカルフレンド社) ③ 看護学入門4 疾病の成り立ち (メヂカルフレンド社) ④																					7月
学 習 の 重 点 目 標																		8月	微生物 第8章 免疫	4	
看護の見方・考え方を働かせ、疾病の成り立ちと回復の促進に関する実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、看護の実践に必要な資質・能力を育成することを目指す。 (1) 疾病の成り立ちと回復の促進について体系的・系統的に理解するようにする。 (2) 基本的な課題を発見し、看護倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) よりよい看護実践を目指して自ら学び、多様な人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む。																					9月
	知識・技能				思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度				第2学期	10月	薬理 第4章 代謝系・内分泌系に作用する薬物 第5章 炎症・アレルギー・免疫に作用する薬物	6					
評価の趣旨	①定期考査 1・2学期…中間考査40点 期末考査40点 3学期…期末考査80点 ②確認テスト20点 前回までの授業内容について出題				①課題 (ワークプリント) の内容 単元ごとに授業内容に関する課題 (ワークプリント) を実施・提出 ②グループワーク・発表の内容 探究課題についてグループワークを実施				①授業中の態度や意欲 ②提出物の内容 授業プリント等は指定通りファイルに綴じる ③ふり返り 定期考査後に実施する自己評価やふり返り、課題の提出状況を評価								11月	病理 第4章 血液・造血器疾患 第5章 内分泌・代謝疾患	6		
													評 価 の 基 準								
	A (十分満足できる状況)				B (概ね満足できる状況)				C (努力を要する状況)				第3学期	1月	薬理 第6章 循環器に作用する薬物 第7章 血液・造血器器官に作用する薬物 第8章 呼吸器系に作用する薬物	5					
知・技	定期考査と確認テストの合計得点が80点以上であり、基本的な知識の理解することができている。				定期考査と確認テストの合計得点が55～79点である。				定期考査と確認テストの合計得点が30～54点である。								2月	病理 第6章 腎・泌尿器疾患 第7章 脳・神経疾患	8		
													B + B -								
思・判・表	課題に積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、わかりやすくまとめることができる。				課題に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、まとめることができる。				課題にあまり取り組むことができていない。				4月	薬理 第9章 消化器系に作用する薬物 第10章 泌尿・生殖器系に作用する薬物 第11章 抗感染症薬	5						
																グループワークに積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、わかりやすく伝えることができる。 <th rowspan="2">5月</th> <th rowspan="2">病理 第8章 女性生殖器疾患・乳腺疾患 第9章 運動器疾患</th> <th rowspan="2">4</th>					
主体性・態度	予習・復習に取り組み、授業にも積極的に発言し参加できている。				予習・復習に取り組み、授業にも参加できている。				予習・復習に取り組むことができず、授業への参加も積極的ではない。				6月	薬理 第12章 消毒薬 第13章 抗悪性腫瘍薬	3						
																毎時間ふり返りができ、授業のポイントについて適切な内容を表現することができている。 <th rowspan="2">7月</th> <th rowspan="2">病理 第10章 感覚器疾患</th> <th rowspan="2">3</th>					
																		8月	微生物 第11章 臨床病理検査	3	
																					9月
																		総 時 間 数		86	

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース										C	進	特	進	進	特	特	看護	学期	学 習 内 容		時数	
教科名	看護			科目名	基礎看護					D	学	進	文	理	文	理	看護		第1学期	4月 5月 6月 7月		b 与薬（内服・坐薬） c 第2章 臨床看護活動と患者・家族の理解 Ia 第5章 治療・処置に伴う看護 Ib 第1章 臨床看護の特徴 第3章 健康状態（レベル）の経過に伴う看護 II 実習記録の書き方（老年実習） 中間考査
単位数	3	学科	看護科	学年	2年	該当するコース・科 →																
教科書・副教材・（発行所）																						
① 患者さんの情報収集ガイドブック（メヂカルフレンド社） 看護学生のための臨地実習ナビ（照林社） ② 基礎看護学入門基礎看護Ⅲ（メヂカルフレンド社） ③ 基礎看護（文部科学省） 看護が見える①②（メディックメディカ） ④ 看護技術プラクティス（学研）																						
学 習 の 重 点 目 標																						
看護の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的学習活動を行うことを通して、看護の基礎となる資質・能力を育成することを目指す。 ①看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ②看護に関する基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③よりよい看護実践を目指して自ら学び、看護の課題解決に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。																						
	知識・技能				思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度				評価の趣旨	第2学期	8月 9月 10月 11月	b 与薬（注射法） フィジカルアセスメント c 第4章 主な症状に対する看護 Ia 第5章 治療・処置に伴う看護 Ib 呼吸器疾患患者の看護 II 実習記録の書き方（基礎実習） 中間考査	10 6 6 12 5 2					
	①定期考査 1・2学期…中間考査40点 期末考査40点 3学期…期末考査80点 ②確認テスト20点 前回の授業内容について出題				①レポートや課題の内容 単元ごとに授業内容に関する課題（ワークプリント）を実施・提出 ②グループワーク・発表の内容 探究課題についてグループワークを実施				①授業中の態度や意欲 ②提出物の内容 授業プリント、ワークプリントは指定通りファイルに綴じる ③ふり返り 自己評価ふり返り課題の提出状況やふり返り内容を評価													
評 価 の 基 準																						
	A（十分満足できる状況）				B（概ね満足できる状況）				C（努力を要する状況）				知・技	思・判・表	主体性・態度	第3学期	12月 1月 2月 3月	b 創傷管理（包帯法） 吸入・酸素吸入 c 第4章 主な症状に対する看護 Ia 第5章 治療・処置に伴う看護 Ib 呼吸器疾患患者の看護 II 実習記録の書き方（来年度に向けて） 期末考査	8 7 8 17 6 0 1 1 1 0 3			
					B＋				B－													
知・技	定期考査と確認テストの合計得点が80点以上であり、基本的な知識の理解することができている。				定期考査と確認テストの合計得点が55～79点である。				定期考査と確認テストの合計得点が30～54点である。				定期考査と確認テストの合計得点が30点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。									
思・判・表	課題やレポートに積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、わかりやすくまとめることができる。				課題やレポートに取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、まとめることができる。				課題やレポートにあまり取り組むことができていない。													
	グループワークに積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、わかりやすく伝えることができる。				グループワークに取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、伝えようど努力している。				グループワークにあまり取り組みが消極的で、自分の考えを周りに伝えることができない。													
主体性・態度	予習・復習に取り組み、授業にも積極的に発言し参加できている。				予習・復習に取り組み、授業にも参加できている。				予習・復習に取り組めず、あまり前向きな気持ちで授業に参加できていない。													
	毎時間ふり返りができ、授業のポイントについて適切な内容を表現することができている。				授業の内容についてふり返りができている。				授業の内容についてふり返りができていない。													
総 時 間 数																		187				

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース										C	進	特	進	進	特	特	看護	学期	学 習 内 容		時数	
教科名	看護			科目名	成人看護					D	学	特	進	進	特	特	看護		4月 ～ 5月	消化器疾患患者の看護 第1章 基本的知識 (Ⅰ構造と機能 Ⅱ症状と病態生理 Ⅲ検査 Ⅳ治療・処置)		8
単位数	2	学科	看護科	学年	2年	該当するコース・科 →													第1学期	6月 ～ 7月	消化器 第2章 主な疾患とその治療 (口腔・食道の疾患、胃・十二指腸の疾患) 第4章 消化器疾患患者の看護 (主な疾患患者の看護)	9
教科書・副教材・(発行所)																						
① 看護学入門8 成人看護Ⅰ 消化器疾患患者の看護、循環器疾患患者の看護 (メヂカルフレンド社)																						
学 習 の 重 点 目 標																						
成人期にある対象の生活、保健および疾病について理解させ、成人看護に関する知識と技術を習得させるとともに、その看護を行うために必要な基礎的な能力と態度を育てる。																						
	知識・技能				思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度													
評価の趣旨	①定期考査 1・2学期…中間考査40点 期末考査40点 3学期…期末考査80点 ②確認テスト20点 前回の授業内容について出題				①課題の内容 单元ごとに授業内容に関する課題を実施・提出。 ②グループワーク・発表の内容や探究課題についてグループワークを実施 ③知識に基づいた思考の確認(考査問題中の記述)				①授業態度や意欲、グループワーク。 ②授業資料の提出：授業資料は指定通りに綴じ、記入漏れが無いこと。 ③授業資料持ち込みの小テストを行い、合わせてプリントの整理状況进行评估する。 ④定期考査後に行う自己評価や振り返り、課題の提出状況进行评估													
	A (十分満足できる状況)				B (概ね満足できる状況)				C (努力を要する状況)													
知・技	定期考査と確認テストの合計得点が80点以上であり、基本的な知識の理解することができている。				定期考査と確認テストの合計得点が55～79点である。				定期考査と確認テストの合計得点が30～54点である。				定期考査と確認テストの合計得点が30点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。									
思・判・表	課題やグループワークに積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、わかりやすくまとめることができる。				課題に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、まとめることができる。				課題にあまり取り組むことができていない。													
主体性・態度	予習・復習に取り組み、授業にも積極的に発言し参加できている。提出物を毎回期日までにらせる。				グループワークに取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、伝えることができる。				グループワークにあまり取り組むことができていない。													
	予習・復習に取り組み、授業にも積極的に発言し参加できている。提出物を毎回期日までにらせる。				予習・復習に取り組み、授業にも参加できている。促すと提出物を出すことができる。				グループワークにあまり取り組むことができていない。提出物を出すことができない。													
	毎時間ふり返りができ、授業のポイントについて適切な内容を表現することができる。				授業の内容についてふり返りができている。				授業の内容についてふり返りができていない。													
総 時 間 数																			57			

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース										C	進	特	進	進	特	特	看	学期	学 習 内 容		時数	
教科名	看護			科目名	老年看護					D	学	特	進	進	特	特	看		第1 学期	4 月 ～ 5 月		第1 学期
単位数	2	学科	看護科	学年	2年	該当するコース・科 →																
教 科 書 ・ 副 教 材 ・ （ 発 行 所 ）																						
① 看護学入門11 老年看護（メヂカルフレンド社）																						
②																						
③																						
④																						
学 習 の 重 点 目 標																						
高齢者の加齢に伴う身体的・心理的・社会的特徴について理解し、日常生活の障害や疾患をもつ高齢者の援助を学ぶ。																						
	知識・技能				思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度													
評価の趣旨	①定期考査 1・2学期…中間考査40点 期末考査40点 3学期…期末考査80点 ②確認テスト20点 前回の授業内容について出題				①課題の内容 単元ごとに授業内容に関する課題を実施・提出 ②グループワーク・発表の内容 探究課題についてグループワークを実施				①授業態度や意欲、グループワーク。 ②授業資料の提出：授業資料は指定通りに綴じ、記入漏れが無いこと。 ③授業資料持ち込みの小テストを行い、合わせてプリントの整理状況进行评估する。 ④定期考査後に行う自己評価やふりあ返し、課題の提出状況进行评估								第2 学期	8 月 ～ 9 月	第2章 高齢社会の医療と看護 Ⅰ 少子・高齢社会の理解 Ⅱ 高齢者の問題 Ⅲ 高齢者に対する保健・医療・福祉の現状と2025年に向けた改革 Ⅳ 高齢者看護の機能と役割 第5章 高齢者に多い疾患と看護 (高齢者に多い慢性疾患、悪性疾患、感染症)		11	
																			中間考査		1	
	A（十分満足できる状況）				B（概ね満足できる状況）				C（努力を要する状況）													
知・技	定期考査と確認テストの合計得点が80点以上であり、基本的な知識の理解することができている。				定期考査と確認テストの合計得点が55～79点である。				定期考査と確認テストの合計得点が30～54点である。				定期考査と確認テストの合計得点が30点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。				第3 学期	10 月 ～ 11 月	第2章 高齢社会の医療と看護 Ⅰ 少子・高齢社会の理解 Ⅱ 高齢者の問題 Ⅲ 高齢者に対する保健・医療・福祉の現状と2025年に向けた改革 Ⅳ 高齢者看護の機能と役割 第5章 高齢者に多い疾患と看護 (高齢者に多い慢性疾患、悪性疾患、感染症)		6	
																			期末考査		1	
思・判・表	課題に積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、わかりやすくまとめることができる。				課題に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、まとめることができる。				課題にあまり取り組むことができていない。				第3 学期	12 月 ～ 1 月	第3章 高齢者看護の原則 Ⅰ 高齢者の特性を踏まえた看護の視点 Ⅱ 高齢者の特性を踏まえた看護の場 第5章 高齢者に多い疾患と看護 (高齢者に多い慢性疾患、悪性疾患、感染症)		11					
	グループワークに積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、わかりやすく伝えることができる。				グループワークに取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、伝えることができる。				グループワークにあまり取り組むことができていない。													
主体性・態度	予習・復習に取り組み、授業にも積極的に発言し参加できている。提出物を毎回期日までに提出する。				予習・復習に取り組み、授業にも参加できている。促すと提出物を出すことができる。				グループワークにあまり取り組むことができていない。提出物を出すことができない。				第3 学期	2 月 ～ 3 月	期末考査		0					
	毎時間ふり返りができ、授業のポイントについて適切な内容を表現することができている。				授業の内容についてふり返りができている。				授業の内容についてふり返りができていない。								1					
総 時 間 数																						47

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース							C D	進 学	特 進	進 文	進 理	特 文	特 理	看 護	学期	学 習 内 容		時数	
教科名	看護		科目名	看護臨地実習（基礎）															
単位数	3	学科	看護科	学年	2年	該当するコース・科 →									●	第 1 学 期	4月 ～ 5月		
教 科 書 ・ 副 教 材 ・ （ 発 行 所 ）																	6月 ～ 7月		
看護データブック 第5版（医学書院） Pocket Drugs 2026（医学書院） エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 第3版（中央法規） エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図 第3版（中央法規）																			
学 習 の 重 点 目 標																			
1) 臨地における看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 2) 臨地における看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて解決策を探究し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3) 臨地における看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の安全と安楽を守り、健康の保持増進と生活の質の向上に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。																			
	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度									第 2 学 期	8月 ～ 9月		
評価の趣旨	(1) 臨床指導者評価 臨床指導者に評価を依頼する。評価表の項目について3段階で評価を行い点数化する（45点） (2) 教員評価 実習記録の内容を評価する。評価表の項目について3段階評価し点数化する（50点） (3) 記録提出点 記録の提出状況を評価する（5点）			(1) 教員評価 実習記録と実習態度から以下の達成度を評価する（実習を終えて、No.1感想、実習態度） ①良いコミュニケーションを取るための原則を理解する ②患者との意思疎通を図る ③指導者や看護師とのコミュニケーション方法を理解する			(1) 教員評価 実習記録と実習態度から以下の達成度を評価する（No.1、No.2、事前・事後学習、実習態度） ①患者にとって最適な環境を理解する ②患者の日常生活援助を理解する ③報告・連絡・相談 ④目標・計画 ⑤態度												
	評 価 の 基 準																10月 ～ 11月	病院での臨地実習	105
		A（十分満足できる状況）			B（概ね満足できる状況）			C（努力を要する状況）											
知・技	評価点の合計が80点以上である。病院の機能と看護の役割が理解できる。また、看護の対象の身体的・精神的・社会的側面を理解し、看護上の問題を考えることができる。			評価点の合計が55～79点。			評価点の合計が30～54点。			評価点の合計が30点未満である。病院の機能と看護の役割が理解が不十分である。また、看護の対象の身体的・精神的・社会的側面を理解し、看護上の問題を考えることができない。									
思・判・表	看護におけるコミュニケーション技術を理解できる。（挨拶、言葉遣い、態度、身だしなみ、笑顔を心掛け、患者の意思を尊重し傾聴できる）			指導があれば看護におけるコミュニケーション技術を理解することができる。			看護におけるコミュニケーション技術を理解が不十分である。												
主体性・態度	療養の場における日常生活の援助を理解できる。（日常生活の実施・見学）			指導があれば療養の場における日常生活の援助を理解できる。			指導を受けても療養の場における日常生活の援助を理解できない。												
指導者や教員に報告・連絡・相談を行い、実習に積極的に実習できる。また、実習目標や計画に具体性がある。			指導者や教員に報告・連絡・相談を行い、実習に取り組んでいる。また、指導があれば実習目標や計画に具体性がある。			指導者や教員に報告・連絡・相談をすることができない。また、指導を受けても実習目標や計画に具体性がない。													
総 時 間 数																105			

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース							C D	進 学	特 進	進 文	進 理	特 文	特 理	看 護	学期		学 習 内 容		時数	
教科名	看護		科目名	看護臨地実習（老年）											第 1 学 期	4 月 ～ 5 月				
単位数	1	学科	看護科	学年	2 年	該当するコース・科 →									●	第 2 学 期	6 月 ～ 7 月			
教 科 書 ・ 副 教 材 ・ （ 発 行 所 ）																				
① 看護学入門 老年看護（メヂカルフレンド社）																				
学 習 の 重 点 目 標																				
老年期の特徴や高齢者の保健・医療・福祉について理解し、日常生活において何らかの障害を持つ高齢者の看護について学ぶ。 ①老年期における身体、精神、社会的特徴を理解する。 ②高齢者とのコミュニケーションを通じて高齢者のニーズを理解する。 ③日常生活に障害のある高齢者の看護・介護を理解する。 ④高齢者に対する保健・医療・福祉援助の実際を見学し、高齢者を取り巻く支援について学ぶ。																				
	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度													
評価の趣旨	（１）施設指導者評価（30点） （２）学校教員評価（70点） ・受け持ち利用者記録の内容 ・その他の実習記録の内容 ※（２）については評価表を作成し、３段階で評価する。 （A：5点、B：3点、C：1点）			(1)実習での学び、感想の内容 (2)注意事項についての判断 (3)文章の内容や表現 ※以上の内容についてA・B・Cの３段階で評価する。			（１）実習態度 ・出席状況 ・積極性 ・言葉遣い ・服装 （２）実習記録提出状況 ・記録提出忘れや提出忘れなど													
	A（十分満足できる状況）			B（概ね満足できる状況）			C（努力を要する状況）													
				B＋			B－													
知・技	施設指導者の評価と学校教員の評価の合計が80点以上であり、老年期の特徴や高齢者の身体状況や日常生活について十分に理解できる。			施設指導者の評価と学校教員の評価の合計が55～79点。			施設指導者の評価と学校教員の評価の合計が30～54点。			施設指導者の評価と学校教員の評価の合計が30点未満であり、老年期の特徴や高齢者の日常生活についての理解が不十分である。										
思・判・表	受け持ち利用者の状況を十分理解し、記録することができる。また利用者の援助について考え、学んだことを記録することができる。			受け持ち利用者の状況を概ね理解し、記録することができる。また利用者の援助について考え、学んだことを概ね記録することができる。			受け持ち高齢者の状況や援助について理解が進まず、記録することができない。													
	適切な専門用語を用い、記入漏れなく分かりやすく記録できる。			専門用語を用い、記入漏れなく概ね記録できる。			指導を受けても、適切な表現で記録を書くことができない。													
主体性・態度	身だしなみを整え、礼儀正しく、学生としてふさわしい言動をとることができる。また指導者や教員に報告・連絡・相談を行い積極的に実習に取り組むことができる。			身だしなみや礼儀・言動において、他者から指摘された際に素直に受け入れ、改善することができる。また指導者や教員に報告・連絡・相談を促すことのできる。			身だしなみや礼儀・言動において、他者から指摘されても改善までに時間を要する。また、指導者や教員に報告・連絡・相談をすることができない。													
	記録は記入もれなく毎日提出できる。また遅刻・早退・欠席がなく実習に取り組むことができる。			少しの指導があれば毎日の記録を整え、提出することができる。また、体調が優れないときは適切な対処ができる。			毎日の記録提出ができない。また、連絡なしの遅刻・早退・欠席がある。													
総 時 間 数																			35	